

岩手県感染症週報

平成29年第42週(10月16日～10月22日)

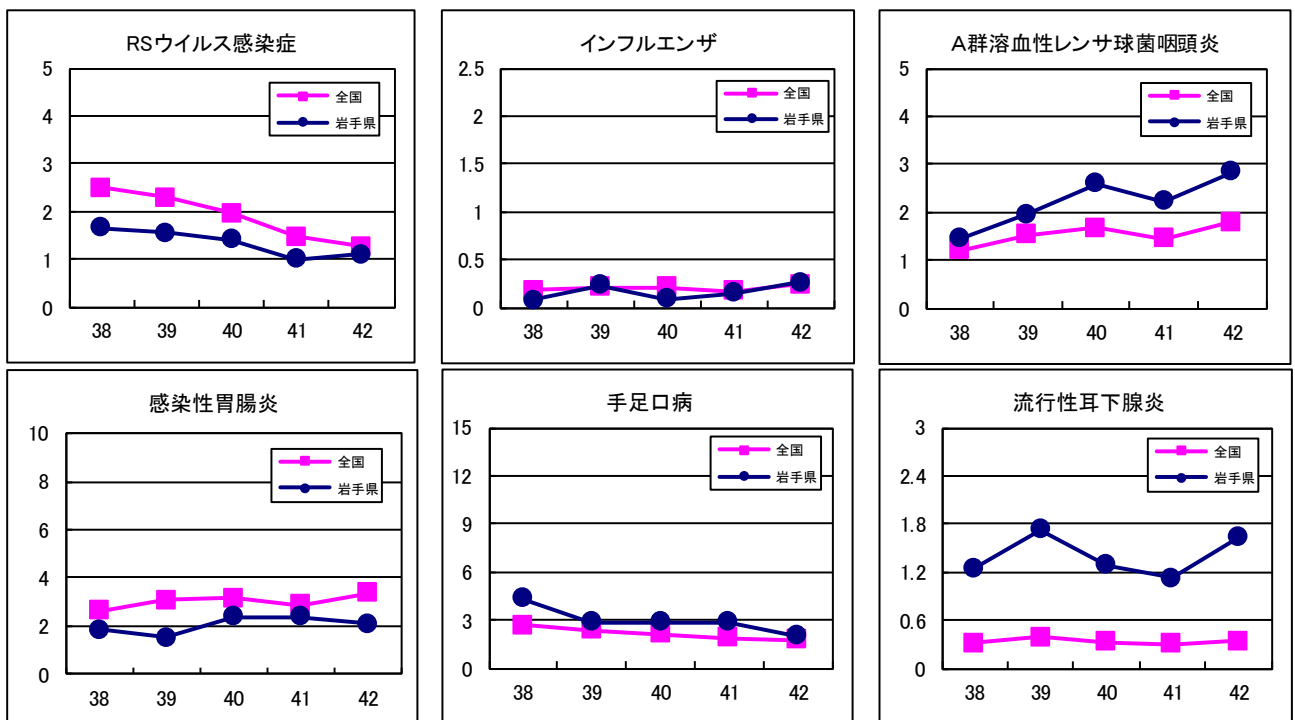
岩手県感染症情報センター

第42週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が7例ありました。このうち潜在性結核感染症の報告は5例です。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症の報告が奥州地区から2例、二戸地区から1例ありました。4歳の男の子と30歳代の女性、60歳代の女性です。今年の総報告数は152例になりました。
- 4 類感染症 ・E型肝炎の報告が盛岡市から1例ありました。患者は50歳代の男性です。
・レジオネラ症患者の報告が大船渡地区から1例ありました。患者は50歳代の男性です。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
・患者発生 の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
・溶連菌咽頭炎は前週より増加しました。二戸及び中部地区と盛岡市で多くなっています。A群溶血性連鎖球菌という細菌による感染症で、主な症状は発熱や全身倦怠感、咽頭痛ですが、肺炎や腎炎などの合併症を引き起こす場合もあります。手洗いやうがいを励行すること、患者との濃厚接触を避けることが重要です。
・流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) は、県央及び中部地区で注意報値 (定点あたり患者数3人) を超えました。ムンプスウイルスによる感染症で、主な症状は耳下腺の腫脹や発熱ですが、髄膜炎や難聴などの合併症を引き起こす場合もあります。ワクチン接種による予防が効果的で、1歳から接種可能です。
・感染性胃腸炎は例年秋から冬にかけて流行するので、今後注意が必要です。調理前や食事前、トイレの後には石けんと流水による十分な手洗いを行うこと、患者の吐物や便は塩素系薬剤で適切に処理することが重要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		38	39	40	41	42		
インフルエンザ	岩手県	0.08	0.23	0.09	0.15	0.26	→	☆
	全国	0.18	0.21	0.21	0.17	0.24		
RSウイルス感染症	岩手県	1.65	1.55	1.4	1	1.1	→	☆
	全国	2.49	2.28	1.95	1.46	1.26		
咽頭結膜熱	岩手県	0.1	0.15	0.13	0.13	0.15	→	☆
	全国	0.38	0.41	0.44	0.39	0.44		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.45	1.95	2.6	2.23	2.83	↗	☆
	全国	1.2	1.53	1.67	1.44	1.8		
感染性胃腸炎	岩手県	1.83	1.5	2.35	2.35	2.08	→	☆
	全国	2.6	3.08	3.15	2.86	3.36		
水痘	岩手県	0.18	0.1	0.13	0.18	0.45	→	☆
	全国	0.2	0.24	0.23	0.24	0.33		
手足口病	岩手県	4.35	2.83	2.83	2.88	1.98	↘	☆☆
	全国	2.67	2.36	2.12	1.86	1.78		
伝染性紅斑	岩手県	0.18	0.43	0.28	0.2	0.35	→	☆
	全国	0.04	0.06	0.04	0.06	0.05		
突発性発疹	岩手県	0.4	0.45	0.38	0.38	0.25	→	☆
	全国	0.38	0.44	0.42	0.41	0.41		
百日咳	岩手県	0	0.08	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.83	0.8	0.53	0.55	0.65	→	☆
	全国	0.56	0.58	0.49	0.36	0.41		
流行性耳下腺炎	岩手県	1.25	1.73	1.28	1.13	1.63	↗	☆
	全国	0.31	0.39	0.33	0.3	0.34		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.36	0.29	0.21	0.86	0.29	↘	☆
	全国	0.85	1.05	0.85	0.79	0.82		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.04	0.05	0.03	0.03	0.04		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.42	0.84	0.53	0.42	1	↗	☆
	全国	0.3	0.36	0.32	0.35	0.37		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.11	0	0	0	0.05	→	
	全国	0.02	0	0.01	0	0.01		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0.01	0.01	0.00	0.01		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	1	1	1		
	全国	12	23	21	37	33		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		38	39	40	41	42		42	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	5 (4)	6 (1)	6 (4)	12 (10)	7 (5)	189 (97)	400	18284
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	1	0	7
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	2	0	121
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	32	5	3	152	69	3481
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	2	33
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	13
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	1	3	5	259
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	2	6	235
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	22
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	10
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	8
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	3
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	2	83
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	2
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	3
	つつが虫病	0	0	0	0	0	3	2	116
	デング熱	0	0	0	0	0	0	8	213
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	10	297
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	3	
マラリア	0	0	0	0	0	0	2	50	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	18	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	1	
レジオネラ症	0	1	2	3	1	19	35	1405	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	2	37	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		38	39	40	41	42		42	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	7	12	864
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	2	2	235
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	12	28	1322
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	1	1	558
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	1	11
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	3	160
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	3	11	444
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	23	1119
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	47
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	2	3	292
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	23
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	1	0	13	24	2534
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	5	2	247
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	11	61	4568
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	106
	破傷風	0	0	0	0	0	1	2	106
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	66
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	75
麻しん	0	0	0	0	0	0	2	188	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	19	

今注目の感染症

RSウイルス感染症

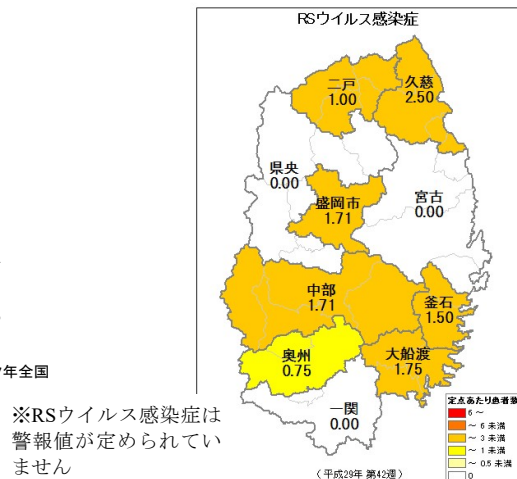
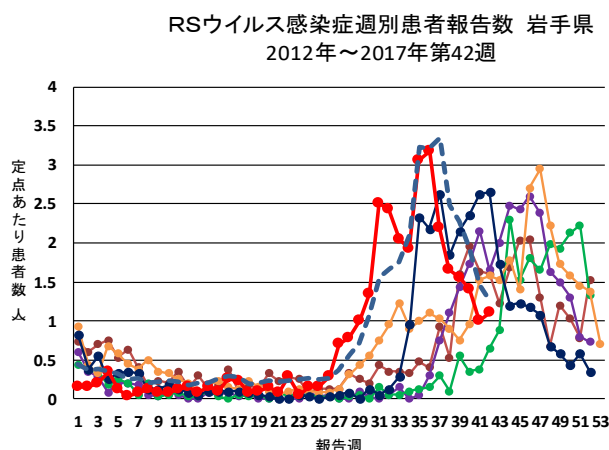
RSウイルス感染症は、RSウイルス (Respiratory Syncytial Virus) による呼吸器の感染症です。1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。症状は、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、初めて感染発症した場合は重くなりやすいといわれています。特に乳児期早期 (生後数週間～数か月間) にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

岩手県では第36週の県全体の定点あたり患者数が3.18人となり、平成18年の調査開始以来最多の報告数となりました。第42週の県全体の定点あたり患者数は1.10人となり、前週よりやや増加しました。例年は秋から冬にかけて流行するので、引き続き注意が必要です。

感染経路は主に飛沫感染と接触感染です。手洗いや咳エチケットをはじめとした基本的な予防対策が重要です。

参考 RSウイルス感染症Q&A (厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html



今注目の感染症 (つづき)

レジオネラ症

レジオネラ症は*Legionella pneumophila* (レジオネラ・ニューモフィラ) を代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症で、その病型は劇症型の肺炎と一過性のポンティアック熱があります。レジオネラ属菌はもともと土壌、河川、湖沼など自然環境に生息する菌ですが、浴槽水や冷却塔水、噴水等の水景施設などの人工環境水においてアメーバを宿主として増殖します。微生物が繁殖してできるバイオフィーム(生物膜、ぬめり)が格好の繁殖場所です。このレジオネラ属菌に汚染された人工環境水から発生するエアロゾル(目に見えないほど細かい水滴)が主な感染源といわれています。

レジオネラ属菌に暴露されても発症することはまれですが、高齢者や新生児、免疫力低下をきたす疾患を有する方は発症リスクが高く、注意が必要です。ヒトからヒトへの感染はありません。

2017年は第42週までに19例の報告がありました。このうち18例が男性です。2006年からこれまでの報告をまとめますと、男性が多くを占めています。年齢層別では60歳代が最も多く、次いで50歳代、70歳代の順になっています。

家庭のお風呂では、エアロゾルの発生を抑えるために気泡発生装置(ジェットバス)の使用を控えること、浴槽水をシャワーに使用しないこと、浴槽や配管にバイオフィームが発生しないように消毒や清掃を適宜行うことが重要です。お湯を循環ろ過して長時間使用する24時間風呂は、レジオネラ属菌が増殖しやすい環境にあることから特に注意が必要です。また、加湿器(超音波方式と遠心噴霧方式)も水を入れるタンクにバイオフィームができてレジオネラ属菌が繁殖する場合がありますので、水は毎日取り換えること、タンク内をこまめに洗浄することが重要です。

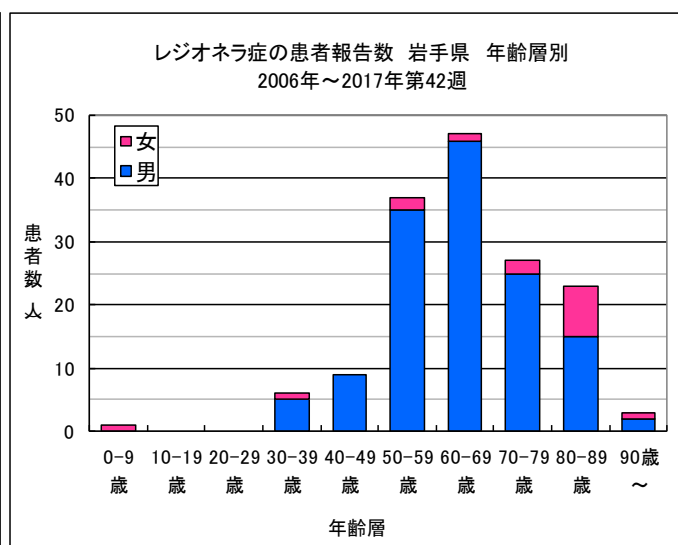
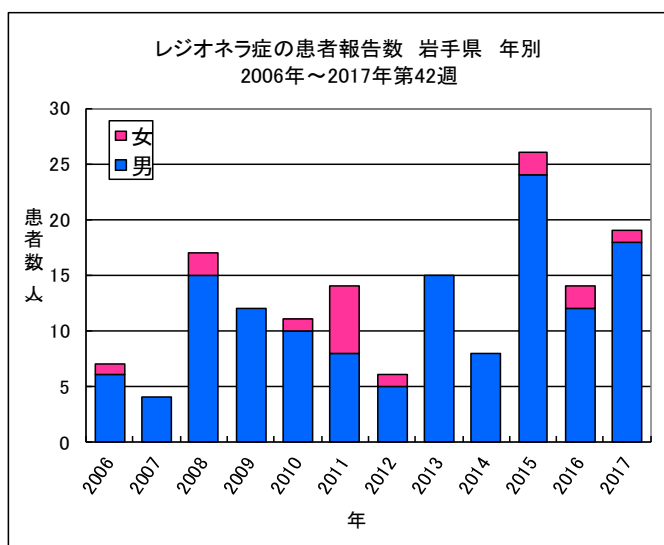
岩手県では多くの方が利用する公衆浴場や旅館・ホテルの入浴施設について、レジオネラ属菌を排除するために、施設の営業者が講ずべき衛生措置の基準を条例で定めています。基準等の内容は下記の『「レジオネラ」ってなに?』のホームページに記載されています。

参考 岩手県

「レジオネラ」ってなに? <http://www.pref.iwate.jp/anzenanshin/seikatsueisei/002821.html>

国立感染症研究所

レジオネラ症とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/530-legionella.html>



今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素 (Vero toxin = VT, またはShiga toxin =Stxとも呼ばれる) を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症です。症状は、無症状から軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、著しい血便と様々です。さらに、溶血性尿毒症症候群の腎不全や脳症など、重篤な合併症を引き起こす場合もあります。

2017年第42週は、奥州地区から2例、二戸地区から1例、計3例の報告があり、2017年の報告数の合計は152例となりました。第40週に奥州地区でO111の集団感染事例が報告されています。

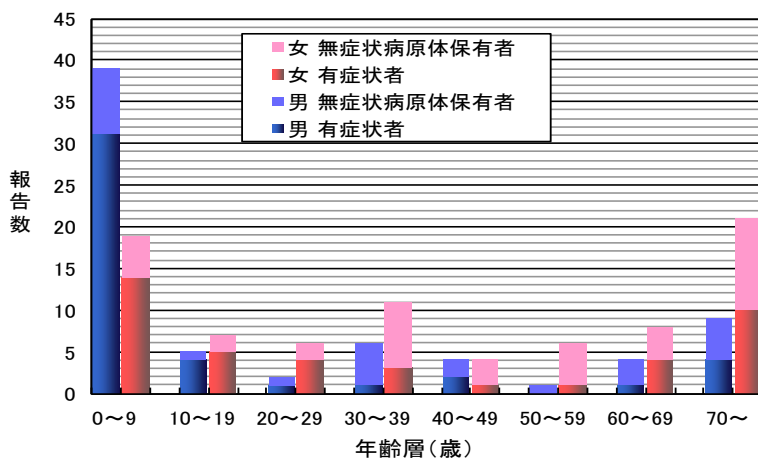
原因となった大腸菌は、O26が68例、O111が39例、O157が28例、O121が8例、O103が1例、O126が1例、O136が1例、O145が1例、O血清型不明が5例でした。年齢層別では、0～9歳が最も多く58例、次いで70歳以上で30例でした。

予防対策としては、食中毒予防の3原則 (食中毒菌をつけない、増やさない、やっつける) を徹底し、生肉や加熱不十分な食肉を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を防ぐため、食事の前やトイレの後などには石けんと流水による手洗いを行うことが重要です。

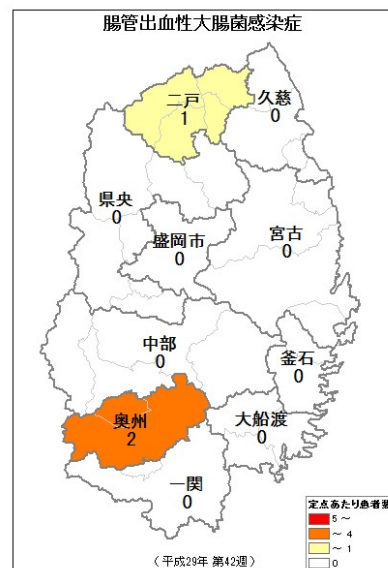
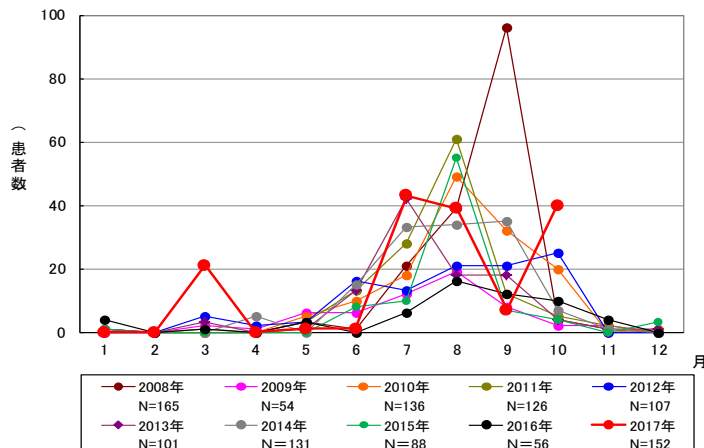
参考 国立感染症研究所

腸管出血性大腸菌感染症とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehcc-intro.html>

腸管出血性大腸菌感染症の報告数、岩手県
性・年齢・症状の有無別、2017年第42週、N=152



腸管出血性大腸菌感染症 月別患者数
(岩手県2008年～2017年)



岩手県 第42週
(※腸管出血性大腸菌感染症は全数報告)

病原体検出情報

- ・不明発疹症の患者の咽頭ぬぐい液から、ヒトヘルペスウイルス7型を1件検出しました。
- ・帯状疱疹の患者の咽頭ぬぐい液から、バリセラゾスターウイルスを1件検出しました。
- ・手足口病の患者の咽頭ぬぐい液から、A群コクサッキーウイルス6型を4件検出しました。
- ・上気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、A群コクサッキーウイルス6型を1件検出しました。
- ・下気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、RSウイルスを1件検出しました。
- ・インフルエンザ様疾患の患者の咽頭ぬぐい液から、RSウイルスを1件検出しました。
- ・流行性耳下腺炎の咽頭ぬぐい液から、ムンプスウイルスを1件検出しました。

集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

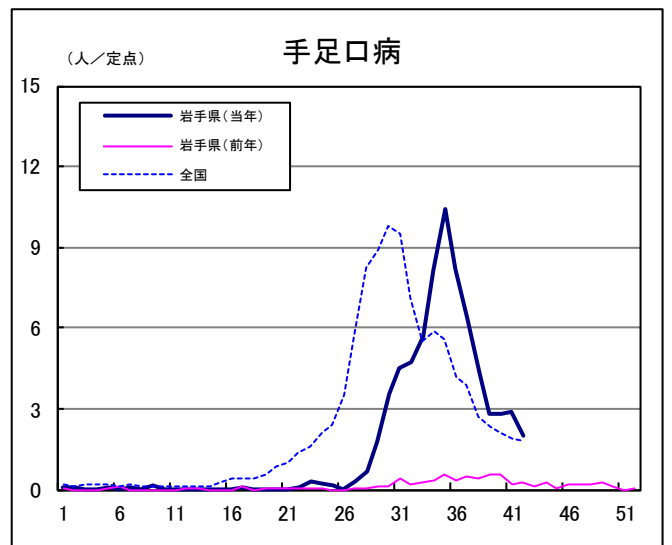
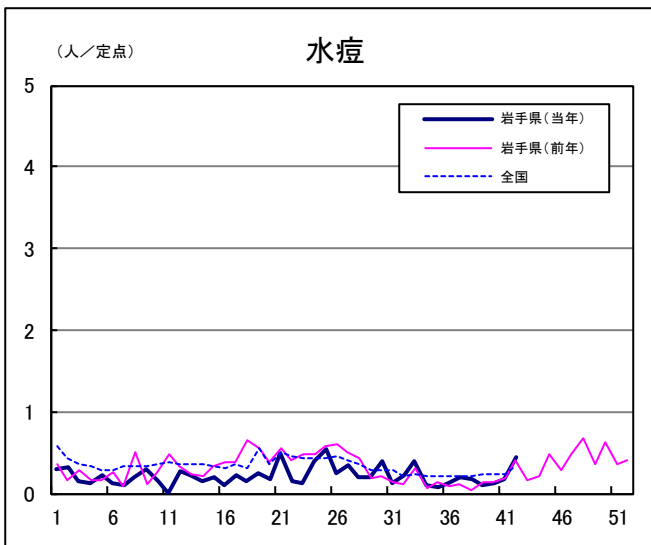
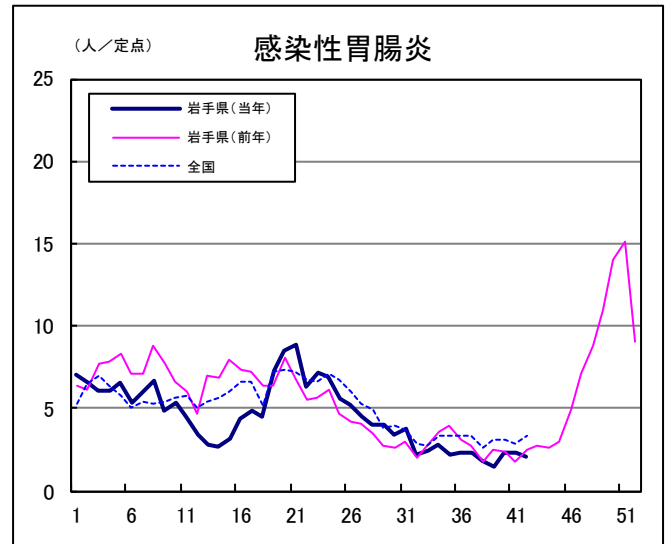
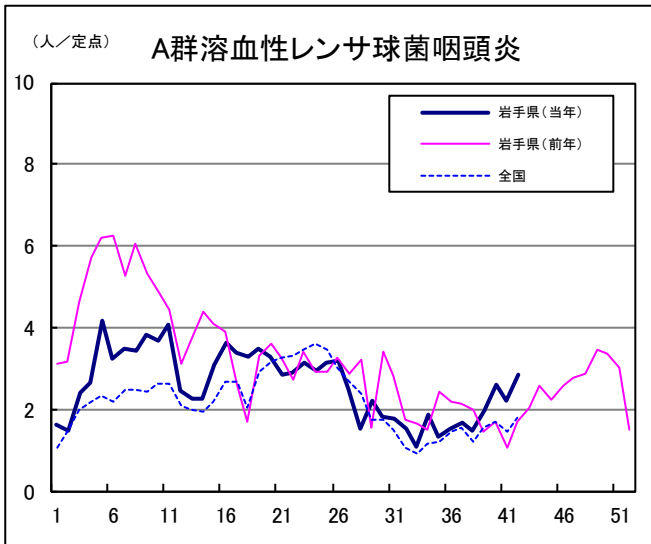
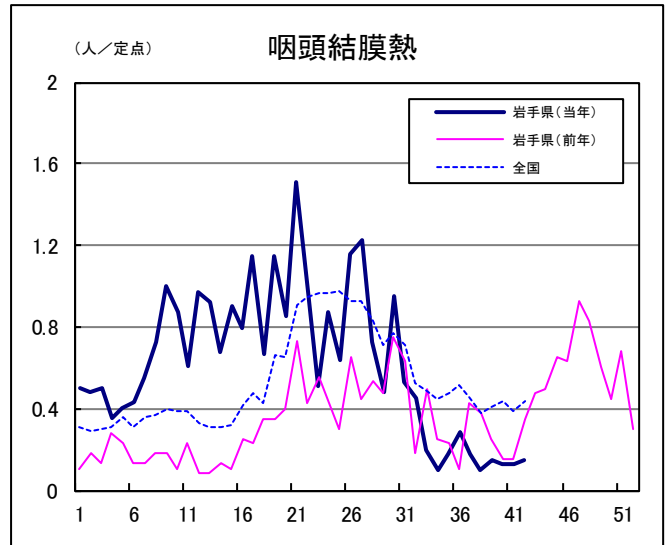
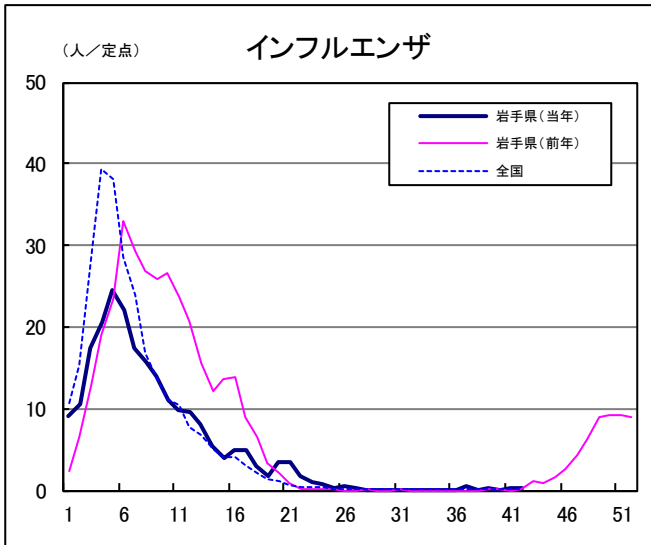
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

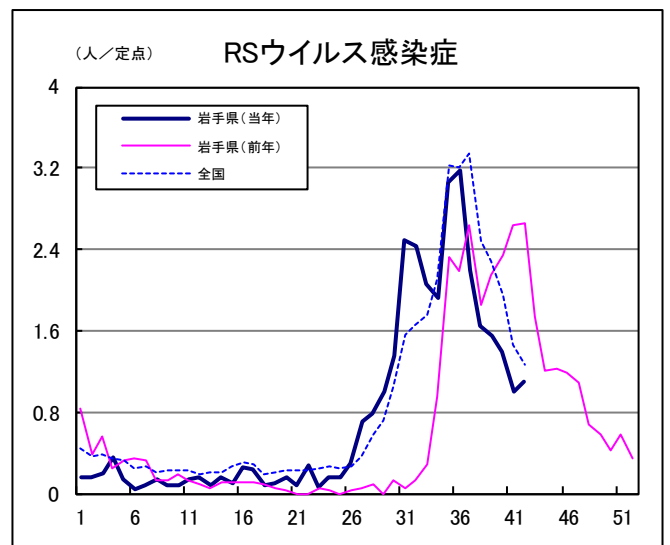
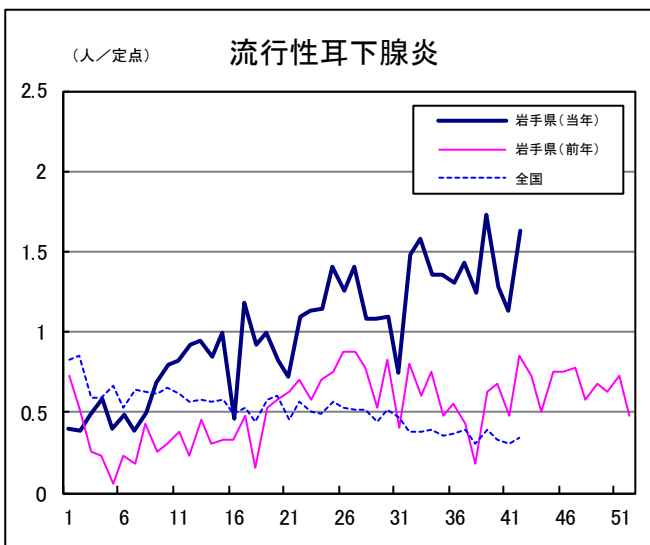
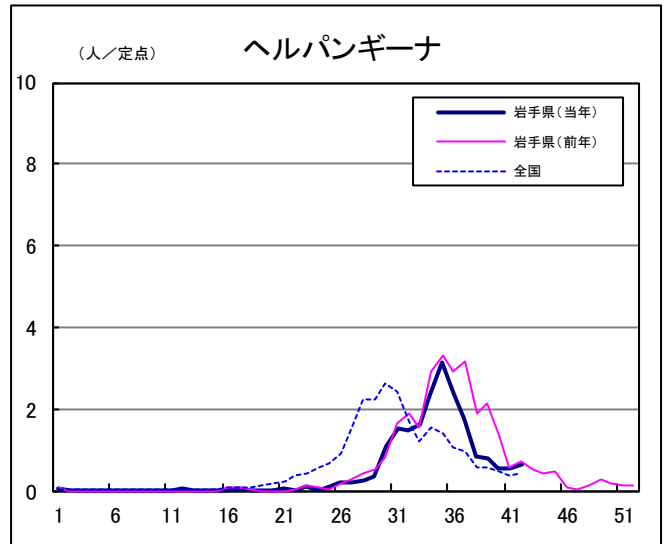
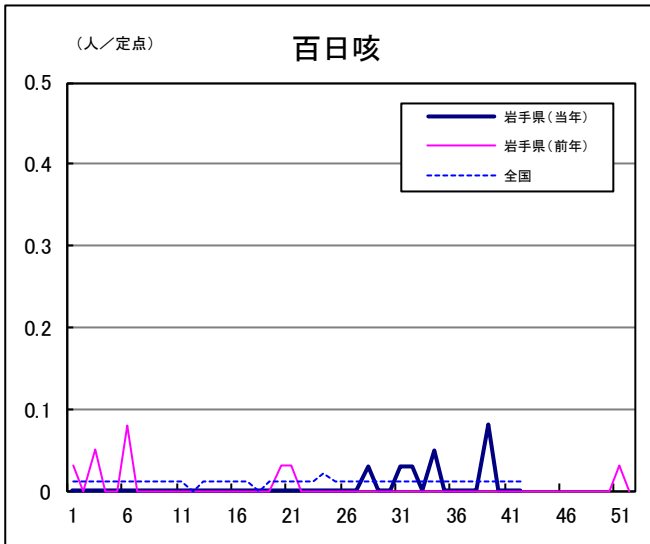
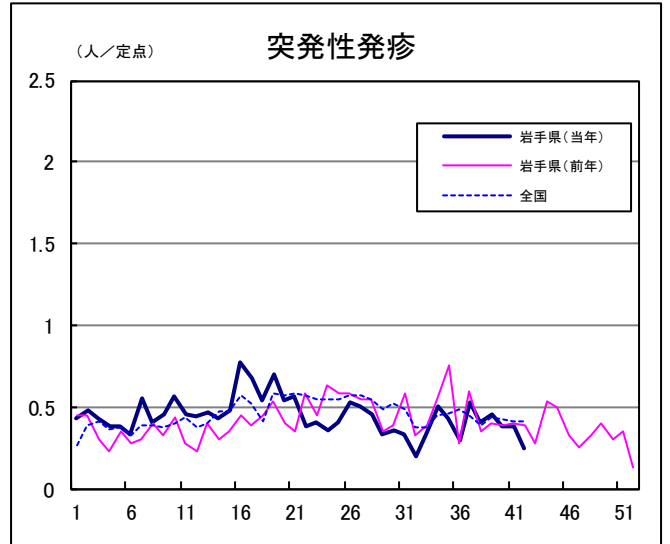
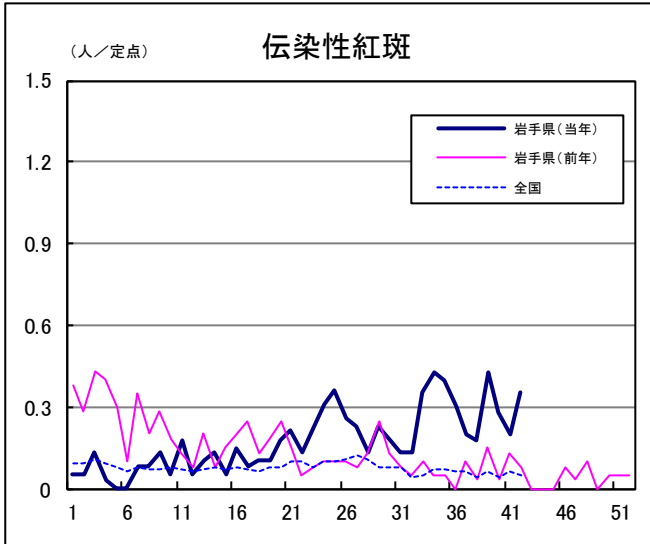
Q & A

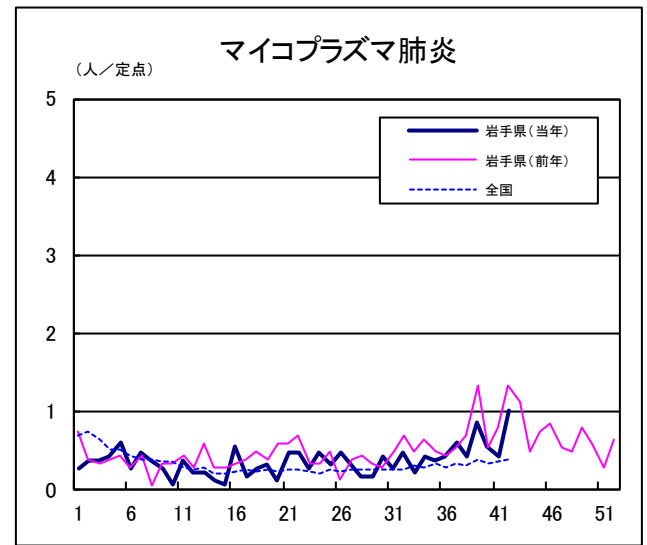
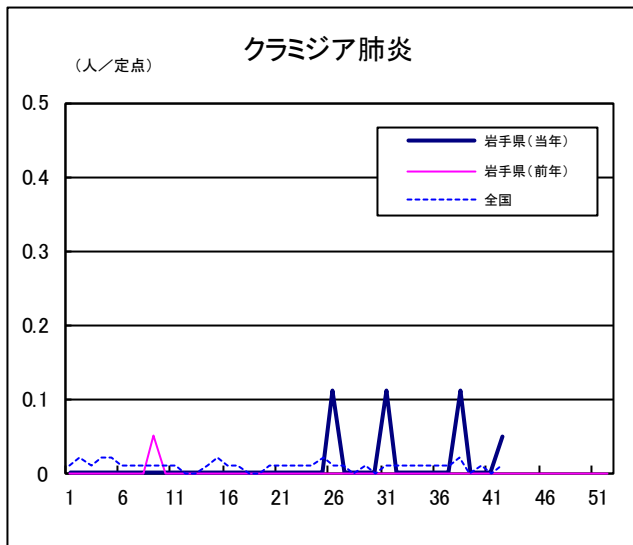
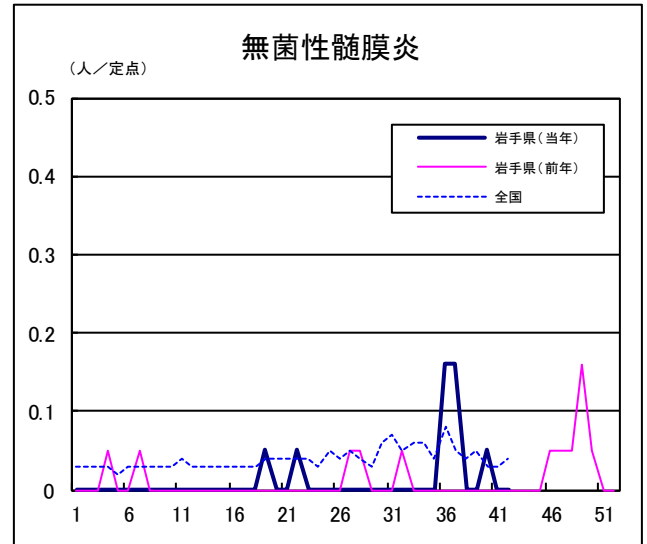
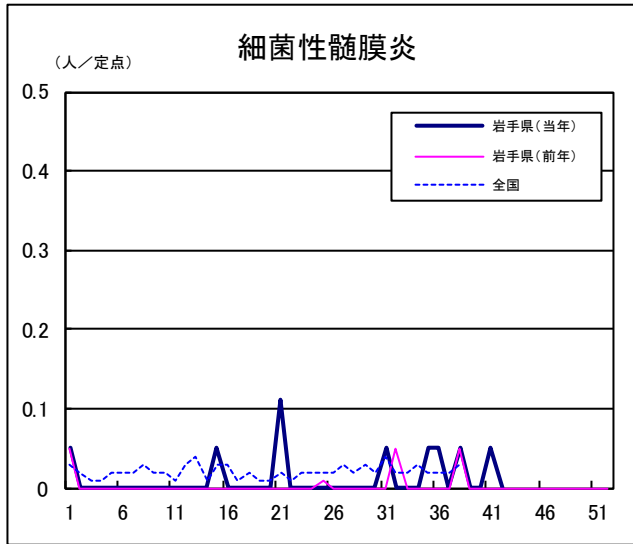
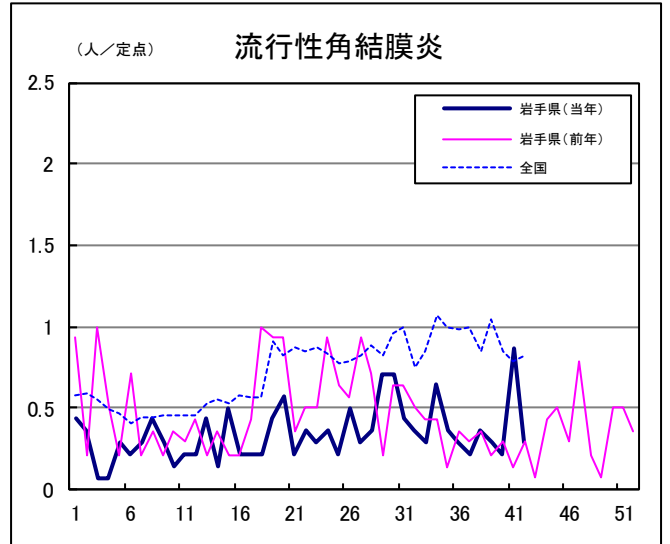
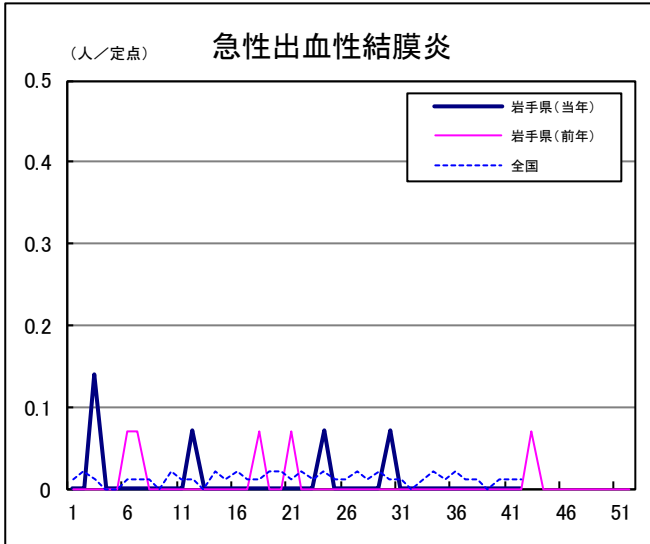
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成29年第42週 平成29年10月27日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>